

日本における公衆栄養学の教育と研究の現状：韓国、台湾、中国との比較

篠崎 奈々、王 菡婕、苑暎藝、李 天鈺、浅野 加奈、児林 聡美、佐々木 敏

【主要な知見】

- ・大学で公衆栄養学を必修とする学科の学問領域は、日本では家政学、韓国では自然系列、台湾では保健・福祉、中国本土では医学であった。
- ・韓国・台湾・中国と比較して、日本は公衆栄養学を必修とする学科の数が最も多かった。
- ・公衆栄養学必修学科 1 学科あたりの公衆栄養学関連の論文数は、他国と比較して日本で最も少なかった。

【序論】糖尿病や肥満などの栄養に関わる問題を解決し、人々の健康を増進するためには、優れた技術をもつ公衆栄養学の専門家が必要である。欧米や中東諸国では、公衆栄養学分野の高度専門人材を養成するために様々な教育プログラムが提供されている。その一方でアジア諸国では、公衆栄養学教育が十分に行われていないことが報告されている。特に日本では公衆栄養学を含む栄養学自体が学問として重視されてこなかったため、公衆栄養学の教育も不十分である可能性がある。しかし、日本やその近隣諸国における公衆栄養学の教育状況は明らかになっていない。本研究では、日本における公衆栄養学の大学教育と研究の現状を、韓国・台湾・中国本土(以下、中国とする)と比較した。

【方法】2016～17年にインターネットを用いた系統的な情報探索を行い、日本・韓国・台湾・中国の学士相当の学位を授与する大学において、公衆栄養学を必修とする学科の数を調査した。日本・韓国・台湾の大学は全数調査を行ったが、中国では情報にアクセス可能な一部の大学・学科のみ調査した。各大学のシラバスにて公衆栄養学(「公衆栄養」「地域栄養」を名称に含む授業)を必修とする学科を調査した。さらに、それらの教育分野を明らかにするため、公衆栄養学必修学科を各国・地域の基準に従って学問領域ごとに分類を行った。

公衆栄養学の研究状況の調査では、2007～16年に公衆栄養学分野の主要学術誌である『*Public Health Nutrition*』に掲載された論文を PubMed で検索した。各論文の著者の所属情報から、日本・韓国・台湾・中国にある機関に所属する筆頭著者と責任著者によって書かれた論文数と、所属機関の種類と数を調べた。また、公衆栄養学必修学科 1 学科あたりの論文数を算出した。

【結果】公衆栄養学必修学科を有する大学の数は日本

で最も多かった(図 1)。公衆栄養学必修学科を有する大学は、日本、韓国、台湾では、国立大学に比べて私立大学が多かった。公衆栄養学必修学科の数は日本で最も多く(137 学科)、次に中国(32 学科)、台湾(18 学科)、韓国(7 学科)が続いた(表 1)。公衆栄養学必修学科の学問領域は、日本では家政学、韓国では自然科学、台湾では保健・福祉、中国では医学であった。論文数に関する筆頭著者・責任著者の結果は類似しており、各国・地域内の機関に所属する筆頭著者により書かれた論文は日本、韓国、台湾、中国でそれぞれ 41、26、21、86 本であった(図 2)。日本、韓国、台湾では、公衆栄養学必修学科のある大学・大学院よりも必修学科のない大学・大学院による論文数が多かった。公衆栄養学必修学科 1 学科あたりの論文数は日本で最も少なく(0.3 編)、次に台湾(1.2 編)、中国(2.7 編)、韓国(3.7 編)が続いた。

【考察】韓国・台湾・中国と比較して、日本の公衆栄養学必修学科の数は最も多いが、公衆栄養学必修学科 1 学科あたりの公衆栄養学関連の論文数は最も少なかった。よって日本における現在の大学教育は、公衆栄養学の活発な研究に結びついていない可能性がある。他国では歴史的に栄養学が家政学から独立してきたが、日本では家政学分野で公衆栄養学教育が行われている。しかし、公衆栄養学の発展のために、公衆栄養学は家政学ではなく公衆衛生学の大きな枠組みの中で専門的教育を行うべきとの指摘もある。また、管理栄養士養成課程では限られた履修時間で公衆栄養学への理解を深めるのは難しいと考えられる。韓国では公衆栄養学必修学科が少ないが、論文の生産効率が高かった。この理由として、公衆衛生大学院で公衆栄養学教育が行われていることや、国民健康・栄養調査のデータの研究利用手続きが容易であることがあげられる。本研究で調査していない教育の内容や質、研究環境に関しては今後さらに調査が必要である。

【結論】日本は韓国・台湾・中国と比較して、大学において公衆栄養学を必修とする学科の数が多く、公衆栄養学必修学科あたりの公衆栄養学関連の論文数は少なかった。今後日本における公衆栄養学を発展させるためには、公衆栄養学の教育の質や研究の環境に関するさらなる調査が必要である。

Shinozaki N, Wang HC, Yuan X, Li T, Asano K, Kobayashi S, and Sasaki S. Current status of education and research on public health nutrition in Japan: comparison with South Korea, Taiwan, and mainland China. BMC Nutrition 2019; 5:10.

論文番号：英文#20623 日本語 J#4130

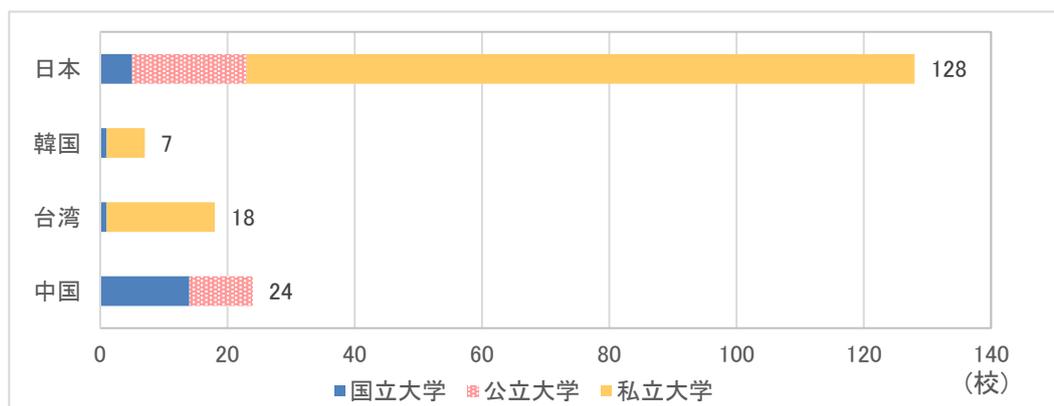


図1 公衆栄養学の授業を必修とする学科を設けている大学の数

中国では国家重点大学プロジェクト「211 工程」に含まれ、かつ情報にアクセス可能な大学のみ調査した。

表1 学問領域別の公衆栄養学必修学科数

日本		韓国		台湾		中国	
学問領域*	学科数† (%)	学問領域*	学科数 (%)	学問領域*	学科数 (%)	学問領域*	学科数 (%)
家政	89.9 (66)	自然系列	4 (57)	保健・福祉	15 (83)	医学	23 (72)
保健(医・歯学除く)	24.1 (18)	医薬系列	3 (43)	農学	2 (11)	工学	9 (28)
その他	10.9 (8)	社会系列	0 (0)	教育学	1 (6)	哲学	0 (0)
農学	9.2 (7)	芸術能系列	0 (0)	芸術・人文学	0 (0)	経済	0 (0)
教育	2.3 (2)	人文系列	0 (0)	社会科学・商学・法学	0 (0)	歴史	0 (0)
人文科学	0.3 (0)	工学系列	0 (0)	自然科学	0 (0)	法律	0 (0)
社会科学	0.3 (0)	教育系列	0 (0)	工学・製造・建築	0 (0)	教育	0 (0)
理学	0.0 (0)			サービス	0 (0)	文学	0 (0)
工学	0.0 (0)			その他	0 (0)	自然科学	0 (0)
保健(医・歯学)	0.0 (0)					農学	0 (0)
商船	0.0 (0)					経営管理	0 (0)
芸術	0.0 (0)					芸術	0 (0)
計	137 (100)	計	7 (100)	計	18 (100)	計	32 (100)

*分類に用いた資料：日本：文部科学省「学科系統分類表」、韓国教育開発院「学科(専攻)分類資料集」、台湾教育部「中華民国教育レベル及び学科標準分類第4訂」、中国教育部「学科専攻目録」

†複数の学問領域に分類される学科は、学科数の合計を分類されている学問領域の数で除し、その商を属している各学問領域に分配した。

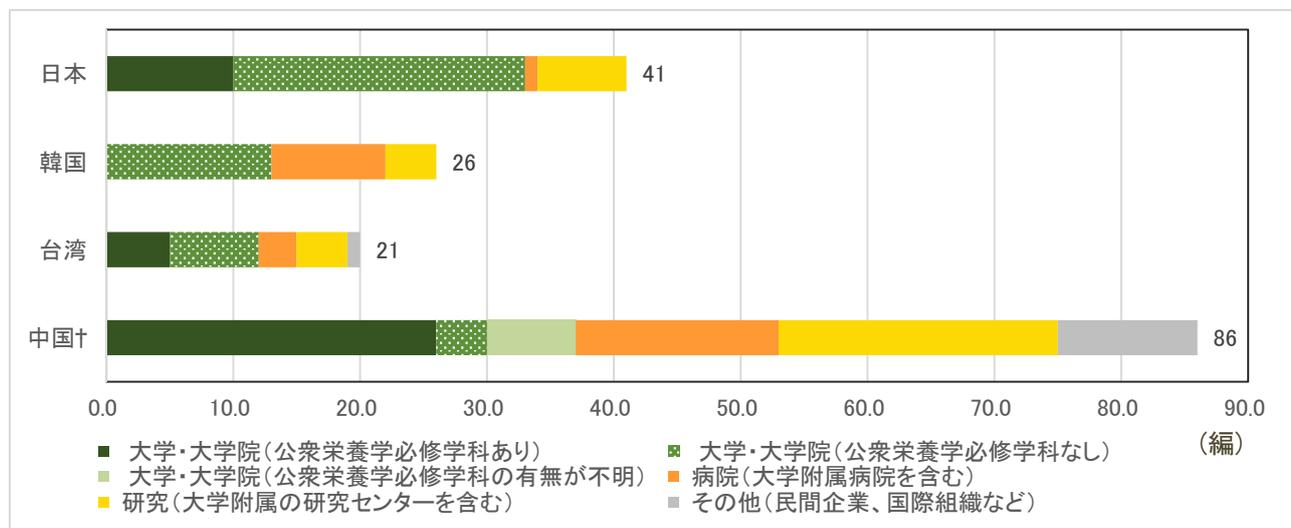


図2 2007～16年に *Public Health Nutrition* に掲載された論文のうち、各国・地域内に所属がある筆頭著者により書かれた論文の所属機関別論文数